

Relations

第9号

2016.02.11



October 10



YOUSEI テーマ「スクールソーシャルワーカーの動き ～拠点巡回型～」
講師 横山 明希
福岡市教育委員会 スクールソーシャルワーカー

SENMON テーマ「実践記録作成法 ～其の巻～」
講師 奥村 賢一
福岡県スクールソーシャルワーカー協会 副会長
福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科 准教授

KISO テーマ「他機関との連携について考える
～他領域ソーシャルワーカー経験者の声～」
講師 木庭 萌美
福岡市教育委員会 スクールソーシャルワーカー
上野 健太
福岡市教育委員会 スクールソーシャルワーカー

YOUSEI



今回の養成研修では、福岡市に多い配置形態である「拠点巡回型」のスクールソーシャルワーカー（以下、SSW）の動きについて理解を深めることができました。拠点巡回型の活動内容を把握するだけでなく、その配置形態におけるメリット・デメリットを理解し、それらを意識して動くことが重要であると学びました。

後半に行った事例検討では、横山さんが実際に支援を行った事例について、拠点巡回型であることを生かした学校内での支援方法を考えグループで共有しました。自分とは異なる視点の意見を多く聞くことができ、見聞を広めることができました。学校への不信感が高い保護者に対する信頼関係の作り方は、学校の一員であることをフルに生かした拠点巡回型ならではの取り組みだと感じました。

私はSSW実習を終えてすぐの研修参加となり、今まで以上に実践的なイメージをもって研修に参加させていただきました。グループ内発表では、自分と近い意見を持ったSSWの方もいて、自分の考えに自信を持つことにつながりました。実際に現場で働いているSSWの方々と話し合える機会は少ないので貴重な体験となりました。ありがとうございました。

学生会員 山北優香



テーマ 「スクールソーシャルワーカーの動き ～拠点巡回型～」
講師 横山 明希
福岡市教育委員会 スクールソーシャルワーカー

SENMON



今回も貴重なお話をありがとうございました。今回の専門研修の内容は、実践記録作成法～其の壱～でしたが、記録の仕方や記録をする意図、目的、記録の取扱いを通して、SSWとしての動き方、視点、役割について振り返る良い機会となりました。

自分の実践を思い返したときに、数多くある情報の中から、いかに子どもたちの支援のための必要な情報を適切に集められるかを意識するだけで、限られた時間の中で効率よく動き、アセスメント、プランニングができるのではと改めて実感しました。

そして私たちが日々SSWとして、なぜそのように動くのか、動機付けも合わせて意識していきながら関わることで、リスクマネジメントもでき、モニタリングや支援の引き継ぎ等、その後の支援にも繋がっていくのだと思いました。

～其の貳～があるときも是非参加させて頂き、より日々の実践に生かしていけるように努めていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

正会員 峯浦聡予



テーマ 「実践記録作成法 ～其の壱～」

講師 奥村 賢一

福岡県スクールソーシャルワーカー協会 副会長

福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科 准教授

KISO



SSWとして様々な関係機関と連携を図る際、まずは「相手を知る」ことが重要だと感じました。「誰」を対象にしているか、どのような理念や目的のもと支援をしているのか、どのような「きっかけ」があって支援をしているのか、もしくはどのような「きっかけ」がないと支援ができないのか…。当たり前のことですが、これらをきちんと私たちSSWが把握していなければ連携を図ることができず、役割分担が不明確なままケースの支援を開始することになってしまいます。また、各機関の特性を理解しながら支援をすることの重要性や、SSWとして連携を依頼した根拠やSSWの役割をきちんと説明できるようにならなくては…と研修を受けていて感じました。

講師の方々が「学校との連携が難しかった」と言われていたように、学校も「各関係機関との連携が難しい」と言われることが多いと感じます。私たちSSWが関係機関の理念や目的を正しく把握していれば、学校に対して関係機関の役割を説明できるだけでなく、SSWの役割を明確に伝えることができ、学校を中心とした効果的な連携ができるのではないかと思います。

今後も子どもたちのより良い発達や成長を支援していくためにも、関係機関の役割を理解することに努め、連携の在り方を常に考えていきたいです。

正会員 熊本佳純

テーマ：「他機関との連携について考える」

～他領域ソーシャルワーカー経験者の声～

講師 木庭 萌美

福岡市教育委員会 スクールソーシャルワーカー

上野 健太

福岡市教育委員会 スクールソーシャルワーカー

December



YOUSEI テーマ 「スクールソーシャルワーカーの動き ～派遣型～」
講 師 寺田 有起
福岡市教育委員会 スクールソーシャルワーカー

SENMON テーマ 「どうやって伝える?スクールソーシャルワーカーの活動とその成果」
進 行 高口 恵美
大牟田市・八女市教育委員会 スクールソーシャルワーカー
話題提供者 池田 敏
添田町教育委員会 スクールソーシャルワーカー

KISO テーマ 「考え方のクセとスキーマに気づこう
～学校現場における認知行動療法の活用～」
講 師 中島 美鈴(臨床心理士)

YOUSEI



テーマ 「スクールソーシャルワーカーの動き ～派遣型～」
講師 寺田 有起
福岡市教育委員会 スクールソーシャルワーカー

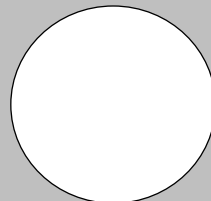
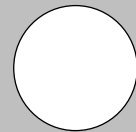


今回の養成研修は「派遣型SSW」に関してのことであり、複数の学校を動き回りつつ、気にかかる子どもたちや関係者により深くかかわることができないジレンマを抱えている状況という話は、複数の事案を同時並行で対処していた過去の個人的な体験からも深く理解できました。

対象となる人々は言葉に表現できない思いと経験を『必ず』しています。言葉にできることは本人にとって「当たり障りのない」部分でしかないのではないでしょうか。その先の心や思いを掘り起こして、それにより良い対応と方策を対象となる人々などと一緒に模索するのがソーシャルワークだと再認識しました。

そして本人に関わる家族を含む各種関係者が円滑に「動く」ように後押しする役目を果たす必要があることも大変に参考になりました。学校職員、本人の家族、他に関わる各職種の方々への働きかけや協力を得ることが、問題を抱える子どもたちの福祉の向上に必要不可欠だと考えました。

学生会員 伊藤圭一



SENNMON



テーマ 「どうやって伝える？スクールソーシャルワーカーの活動とその成果」

進行 高口 恵美

大牟田市・八女市教育委員会 スクールソーシャルワーカー

話題提供者 池田 敏

添田町教育委員会 スクールソーシャルワーカー



今回の専門研修では、経験年数3年以上のSSW11名が集まり、テーマに沿ってそれぞれの活動をもとに意見交換を行いました。

冒頭の自己紹介では担当地区、勤務形態、活動形態等を順番に紹介していきました。同じ職業ではありながらも自治体により、配置されている人数や動き方が様々に異なっていることを改めて感じました。その後、SSWの役割を教育委員会に対しどのように伝えていくのかという話題に移りましたが、自治体の規模、教育委員会との距離感、配置されている人数等、条件が異なる中でそれぞれが意識している点の違いを共有する機会となり、とても勉強になりました。

私が最も印象に残ったのは、SSWとして長く活動を続けていると自身の動きをチェックする機会が減ってくるという話題です。それは、一つの自治体で活動を続けていくとSSWに対して率直な疑問、質問等を投げかけられる機会が減ってきたり、SSWの動きに対する意見等が減ってきたりするためといったような内容からそのようなことが起きてくると考えられます。支援者として柔軟性を失わないためにも、やはり定期的に自身を振り返ることが重要だと改めて感じることで貴重な時間でした。ありがとうございました。

運営委員 森真司

KISO



テーマ 「考え方のクセとスキーマに気づこう
～学校現場における認知行動療法の活用～」
講師 中島 美鈴（臨床心理士）

基礎研修では認知行動療法についての理解、自分のクセやスキーマを知る事についてワークしました。日頃、自分史を振り返る事はあまりないので、見えていない自分を知る作業は、自分の気づきにもなり、とても役に立ちました。その研修の中で、あるSSWの方が自己覚知を常に行っていると言われていましたが、SSWとして支援するにあたり、自分を見つめ直す作業は、とても重要であると感じました。

以上の様に今回の研修を受け、自分を振り返り、気づきを確認出来、これからも自分に驕る事なく自己研鑽に努めていこうと感じました。ありがとうございました。

正会員 榎田美季





日本学校ソーシャルワーク学会第10回記念大会 福岡大会
「学校ソーシャルワーク実践の動向と今後の新たな展開—10年目の起点—」

U·C·H·I·A·G·E!!



2015.10.10

日本学校ソーシャルワーク
学会第10回記念大会福岡大会
の打ち上げを行いました！！
写真には出席者全員は写って
いないのですが、20数名で盛り
上がりました\ (^.^) /
結束力が一段と増した時間と
なりました。



2016 KAKIZOME!

初心忘
ぶか笑

力加
十力

笑
彦顔

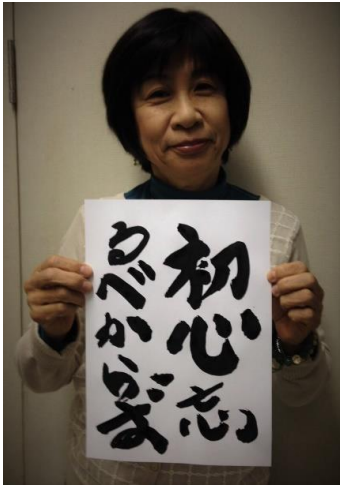
ユリテ
ネート力

熱
ハハ

徹凡
底事

無
知

IN
MINAMI CHIKUGO



KATSUKO
KOGA



MEGUMI
KOUGUCHI



CHIYO
INOUE



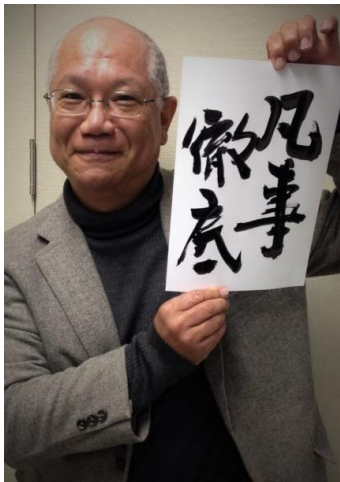
KOSUKE
KAJIWARA



KAYO
OKAJIMA



MAMI
KAWANO



SHIGETOSHI
HORIKAWA



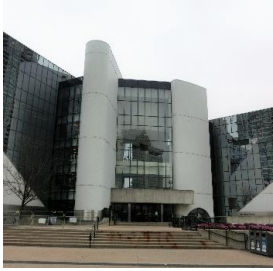
今回は、東筑後地区SSWの皆さまに2016年の抱負を書初めしていただきました。

東筑後地区SSWの皆さま、ご協力ありがとうございました。書初め全部合わせると最強なSSWになりそうですね!!

みなさんは、2016年どんな1年にしたいですか?

カナダ・オンタリオ州視察

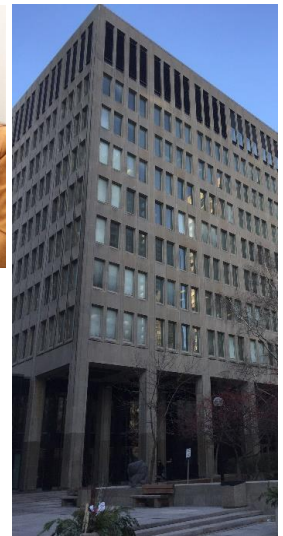
今回は、オンタリオ州におけるいじめ対策について、これにおけるSSWの役割について各所訪問し、SSWや関係者の方々との会談を行ってきました。少しばかり、ご報告させていただきます。



TORONTO Scarborough Civic Centre

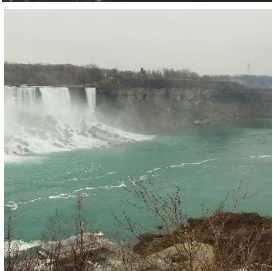
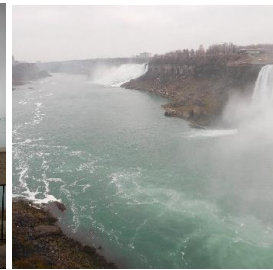
トロント市教育委員会訪問 チーフSSWの方々とのお話

ここでは、実際にSSWの方が学校で実践しているいじめ対策に関するプログラムやプログラムを実践していく中で心がけていることについて話をきくことができました。ちなみに、トロント市には、105人のSSWと4人のチーフSSWが活動しているそうです。何より、チーフSSWの方々のオーラはすごかったです！！

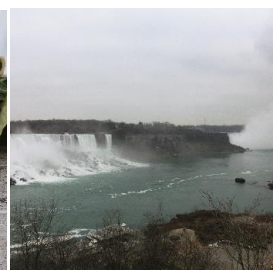
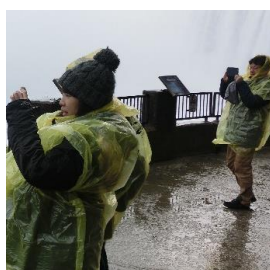


オンタリオ州教育省訪問

ここでは、いじめ対策に関する法律 (Bill 13) についてや、教育省としての取り組みについての話をききました。いじめ対策を個人個人の対応だけでなく、学校全体や地域全体で理解してもらうために教育省がリーダーシップをとりながら取り組んでいる話や、予防だけでなくいじめが起こったときにどう対応していくかといった話をきくことができました。

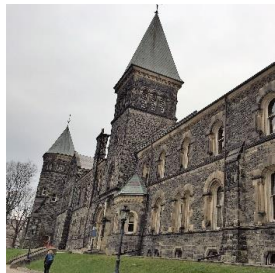


NIAGARA REGION

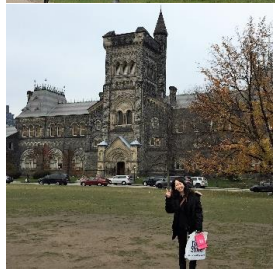


カナダ滝





UNIVERSITY OF TORONTO



ライアーソン大学
スティーブ・ソロモン教授との
会談（SSW歴15年間）
ここでは、SSWの日々の具体的実践
内容やSV体制、いじめや児童虐待に
おける対応等など、日本での実践に
おいて日常的に取り入れることのできる
話をたくさん聞かせていただきました。

JUNIOR MIDDLE SCHOOL



公立小学校訪問 副校長・SSW（3名）との会談

ここでは、副校長先生と3名のSSWより、校内でいじめを発見した際のアクセスの仕方や対応、どの時点でSSWが介入していくのかといった話や、子どもや教職員、保護者と一緒に安全・安心できる学校にしていくための日常的な取組みについて話していただきました。3名のSSWの方々からはトロント市内のSSWとの繋がりについてもお話をきくことができました。



今回の視察で感じたことは、出会ったSSWの市全員が、SSWとしての誇りや専門職としての揺るぎない芯を持っているのに、日々の実践はより子どもや先生たちが近く感じられるように日常的な工夫がなされているということでした。

視察に行く前までは、とんでもなくSSWの位置づけや認識が日本とは違ふらうなと思っていましたが（もちろん、そう感じることもありました）、同じSSWとして大切にしていきたいところは共通なんだなと実感することができました。いつの日か、トロントのチーフSSWの方々を日本にお招きできるように日々精進したいと思います。

KAMACHI MEGUMI



坂本 優

大野城市教育委員会 スクールソーシャルワーカー



平成27年度から大野城市でスクールソーシャルワーカー（以下、SSW）をしております坂本優（すぐる）と申します。前職は地域生活定着支援センターでの刑余者支援、地域医療支援病院や大学病院で医療ソーシャルワーカーをしていました。

SSWを始めてからは出身大学の研究室で過ごすことも多く、学生と話す機会も増えました。私の出身大学は精神保健福祉士国家試験の受験資格は得られますが、社会福祉士国家試験の受験資格を得ることはできません。平成26年度の診療報酬改定から社会福祉士に限定した算定要件が出たこともあり、社会福祉士の受験資格を得るために専門学校で通信課程を修了し平成27年度の社会福祉士国家試験を受験しました。国家試験前には出身大学の現役の受験生や専門学校の同期と国家試験対策や定期的に食事会をしたり、バッティングセンターに行ったり、時には世間話やゲーム、トランプなどに熱中し過ぎた日もありましたが、仲間と共に励まし合い、遊び楽しみ大変有意義な時間を過ごすことができました。

ソーシャルワーカーをしていると業務や研修などによって本当に多くの人と出会うような気がします。今回の社会福祉士国家試験受験に際しても様々な人と出会い親睦を深めることができました。

私の出身大学、専門学校からも多くのソーシャルワーカーが現場へ出ていきますが、この仲間との繋がりを大事にし業務にも活かしていければと考えています。これからも新たな人との出会いを期待し、出会えたことの感謝を忘れず日々を過ごしていきたいと思えます。子ども達に対しても先ず出会えたことへの喜びと感謝の意を示し、しっかりと伝え、子ども達一人ひとりの存在を認めることのできるワーカーでありたいです。

FASSWより：協会情報は、ホームページとFacebookにも掲載しております！！

ホームページ fassw-2012.jp

Facebook 「福岡県スクールソーシャルワーカー協会」

研修委員会より：次回の研修会は、2月13日（土）です。詳細はメーリング等にてご案内します。ご参加お待ちしております。

広報委員会より：次回広報誌の配信は、来年度はじめを予定しています。

発行責任者： 奥村 賢一

編集担当： 広報委員会 蒲池 恵 寺田 有起 田上 麻衣子 中筋 啓介

お問い合わせ

福岡県スクールソーシャルワーカー協会 事務局

〒839-8502

福岡県久留米市御井町1635番地 久留米大学 文学部社会福祉学科 (担当/山崎)

Tel：0942-43-4411 Fax：0942-43-5160

E-mail：fassw-2012@hotmail.co.jp

